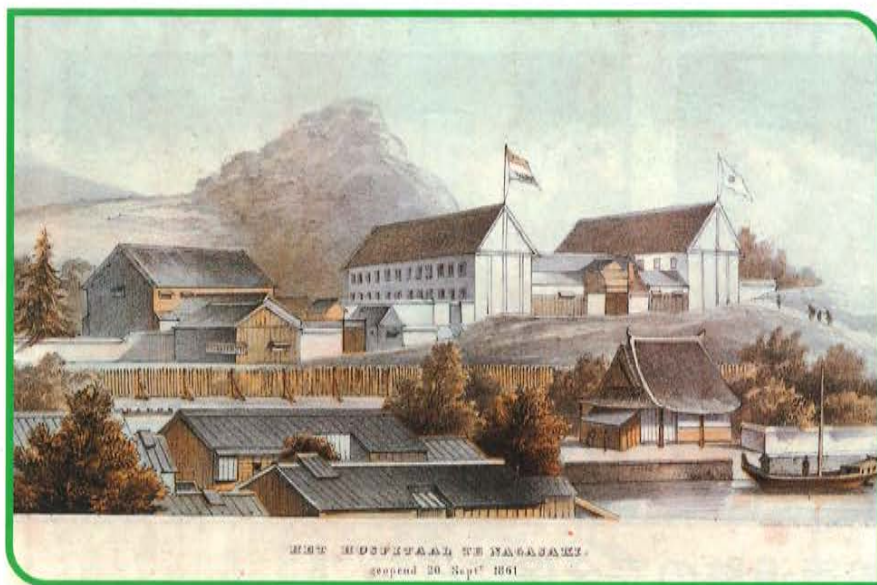


# 日本最初の西洋式病院・養生所等遺跡の完全保存を！

— 国の史跡・重要文化財にしましょう —



旧佐古小校門前に記念碑・説明板

●江戸幕府の要請で、長崎に赴任したオランダの軍医ボンベは、松本良順の協力を得て、1857年11月12日長崎奉行所西役所で医学伝習を開始。この日が長崎大学医学部創立記念日であり、近代西洋医学教育発祥の日である。

## 3団体が長崎市議会に養生所等遺跡の完全保存求め陳情 教育厚生委員会は、新校舎「くい打ち」継続審査

9月13日「養生所・医学所・分析究理所遺跡の保存を求める佐古・仁田地区有志の会」（代表高橋正行）、「長崎の自然と文化を守る会」（会長鮫島和夫）、「養生所を考える会」（代表池知和恭）の3団体は、長崎市議会に「養生所等遺跡の完全保存を求め、陳情しました。教育厚生委員会で、各代表が陳情の趣旨を述べ、佐古・仁田地区有志の会のメンバーとして出席されたハルメン・ポイケルス長崎大学教授（前ライデン大学教授）は「文化史から見た養生所と医学校」について意見を述べられ、相川忠臣・長崎大学名誉教授が通訳されました。



ハルメン・ポイケルス教授の陳述（要約）「幕末時代、医学と自然科学の分野で3つの重要な進展があった。①1857年、厳密な形で自然科学に基づいた日本最初の（西洋式）医学校（医学伝習所）が開校され、②1861年、日本初の西洋式病院、養生所が開院し、広く一般市民を対象とし、教育病院として使用された。③1865年、医学生だけでなく、薬学、工学、軍事科学や地質学を学ぶ学生のための化学と物理学を学ぶ学校、分析究理所が開かれた。これら3つの教育機関、養生所、医学校と分析究理所は日本における近代西洋医学と自然科学の導入に向けた最初の一歩でありながら決定的な進展をもたらした。

9月14日市議会教育厚生委員会は、新校舎「くい打ち工事」について、新たに「分析究理所」遺跡が発見され、9月12日長崎大学が全面調査を求め要望書を提出し、3団体の「遺跡の完全保存を求める陳情書」提出などから、「十分な調査」を求め、全員一致で継続審査としました。

養生所等遺跡を残す  
市民の会

2017.9.27 No.1

# 3団体は、9月15日 長崎市長と市議会議長に緊急要請

～いったん立ち止まり、世界の遺産「西洋医学発祥の地」をよみがえらせる英断を～



市秘書課の酒井英生課長に託す



市議会の野口達也議長に届け面談

## 養生所・長崎医学校等遺跡の完全保存と 旧佐古小学校跡地への学校建設の中止を求める緊急要請

### 一遺跡の完全保存と小学校建設（旧仁田小学校敷地へ変更）は両立可能一

私たちは、養生所・医学所・分析究理所等の遺跡は、幕末から明治にかけて近代西洋医学教育がアジアで初めて導入された世界的な文化遺産と考えています。しかし、私たち3団体の「養生所等遺跡の完全保存を求める陳情」の審議の際、遺跡をめぐる新しい情勢(新遺構の発見、長崎大学による工事中止の要望の提出等)にも関わらず、長崎市当局は、従来の姿勢を変えず、「9月末までに遺跡調査を終え学校建設を予定どおりすすめる」との答弁に終始したことは残念です。一方、9月14日の教育厚生委員会においては、十分な調査を求め「くい打ち工事」議案を全員一致で継続審議としたことは、多くの市民の願いに応えるものです。

しかし、このままでは、長崎市が「近代化の黎明」として「歴史文化基本構想」に位置づけている貴重な遺跡が破壊され永久に消滅することになりかねません。最悪の事態を避けるため、3団体は、共同して市長に次のことを緊急に要請しました。

1. 遺跡を全面的に破壊する旧佐古小学校跡地への小学校建設工事および外周道路拡幅工事は、ただちに中止すること。同じ敷地での「史跡保存と学校建設の両立」は不可能です。学校建設の用地は、現在の仁田佐古小学校敷地への建て替えで対応すること。
2. 養生所・医学所・分析究理所等の遺跡全体の学術調査を実施し、市民に遺跡の全貌を明らかにすること。
3. 小学校建設遅延の原因は、長崎市教育委員会が養生所等遺跡の歴史的文化的価値について、住民に情報提供を行なわなかったことにあります。原点に立ち返って地元住民との協議をやり直すこと。
4. 教育環境の早期整備という住民の要求には、旧仁田小学校敷地等への校舎建設で応えること。

## ●3団体は、9月20日「養生所等遺跡の完全保存を実現する市民の会」を発足

代表世話人 高橋正行（前佐古小学校育友会会長）  
鮫島和夫（前長崎総合科学大学教授）  
相川忠臣（長崎大学名誉教授）

昭和八年(1933年)九月二十二日 金曜日 長崎日々新聞朝刊2面 第三版

### 『西洋醫學の發祥地』小島病院を史蹟に文部省へ指定方を

長崎市西小島町縣立小島病院は、和蘭醫學華やかかなりし頃の長崎養生所の跡として、本邦病院創成の根源、長崎醫科大學及び病院の濫觴をなし、實に本邦における西洋醫學發祥の地として長崎が天下に誇るに足る名史蹟とされ夙に識者間に之が史蹟指定の機が擡頭してゐたが、二十日日本縣社寺兵事課より史蹟名勝天然記念物保存法に依り、史蹟として指定方を、願書、地籍圖、実測圖、見取圖、寫眞等を添え、文部大臣宛申請した。史蹟長崎養生所跡は、現在の縣立小島病院、佐古小學校、大徳園に亘る一帯を占むるものであるが、その沿革の概要を記せば左の通りである。(以下、沿革を紹介し省略)

## 西洋醫學の發祥地

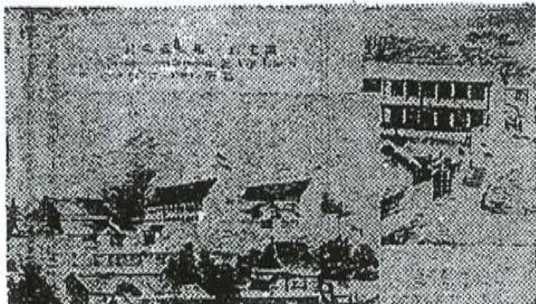
### 小島病院を史蹟に

#### 文部省へ指定方を

長崎市西小島町縣立小島病院は和蘭醫學華やかかなりし頃の長崎養生所の跡として本邦病院創成の根源長崎醫科大學及病院の濫觴をなし實に本邦における西洋醫學發祥の地として長崎が天下に誇るに足る名史蹟とされ夙に識者間に之が史蹟指定の機が擡頭してゐたが、二十日日本縣社寺兵事課より史蹟名勝天然記念物保存法に依り史蹟として指定方を、願書、地籍圖、実測

圖、見取圖、寫眞等を添え文部大臣宛申請した。史蹟長崎養生所跡は現在の縣立小島病院、佐古小學校、大徳園に亘る一帯を占むるものであるが、その沿革の概要を記せば左の通りである

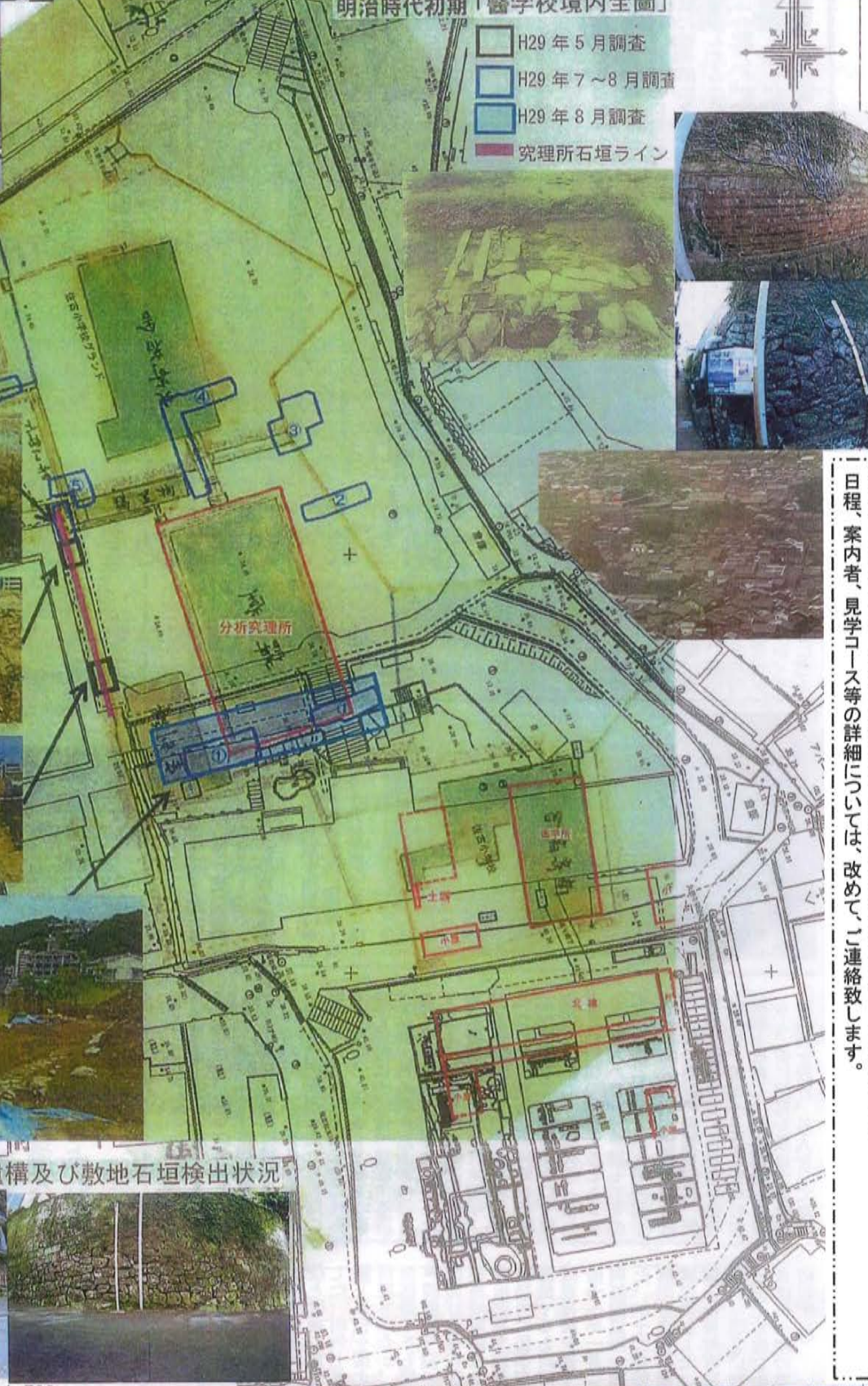
結果、幕府も大に賛成し、安政六年直ちに幕府代官高木作右衛門に命じて敷地を選定せしめた。茲に於てポンペは常時新たに渡來した海軍傳習所教官トローエンに其の設計を依頼し、彼國の軍用病院及び市民病院の制度を參照して萬延元年の時の長崎市小島船泊所(北十五間、東西二十七間)の敷地を選定し、養生所なる建築物を設立した。此の養生所は主として市郷民の救護を目的とする病院であつたが、文久三年ポンペは更に幕府に乞ふ



養生所の地跡に更に醫局所なるものを併置することとなつた。即ち我國醫學の濫觴と稱すべきである。茲に於て松本奥順を預取にポンペを内科外科の教頭に任命し同元年八月十六日開院式に開校

式を發行し、直ちに事務を開始したが本邦に於ける醫局設置の如きも實に此時代に始められたものである。其後文久二年は至りポンペが歸國したため新たに關人ポードキンを以て之に代りしめたが、このポードキンの學識と徳性は大に世の敬慕する所となり、其の敬慕を乞ふもの益々多く、其敬慕に約千名に達したと云ふ。又同年松本奥順職を辭して歸郷したので、八木彌平、戸塚源相次いで其の任となつた。其後慶應元年長崎奉行服部左衛門佐の養生所を以て精得館と改稱し、分析生理(化學局)の一棟を増設することとなり、關人ハラタマを聘してその專任教師とした。其後明治元年維新の際九州鎮撫總督澤村右衛門輔佐の醫學の獎勵を蒙り、判井十間多をして精得館を修理せしめ、同年十月之を長崎府醫學校と改稱し、長崎府醫學校とし、新に規定を設け大學小學の二科を設け、外人を以て教師

とし同二年更に數學、幾何、物理、化學等の教授をたざしめた。明治四年文部省の所管となり、大に規模を改め校名を長崎醫學校と改稱し定額金貳萬圓を支給した。明治七年併置の役あるに際し學校を廢止して藩地、務局病院としたが、八年右衛門が一應終局すると同時に是等建築物に再修築の所請する所となり、茲に再び醫學校復興の議起り、結果長崎病院なるものを設置し、吉田興隆を院長とした同九年開院内に醫學科を開設し生徒を募集すると同時にその一部に身附産科院を置くことになつた。同十一年一月この醫學科を長崎病院附屬第一診療科と改稱した。同十二年醫學科を縣立とし病院を之が附屬に代用し生徒の講習所とした。同二十二年醫學科病院を長崎病院と改め、更に三十四年縣立婦孺病院と改稱し、大正七年縣立小島病院と改稱今日に至つたのである。(寫眞は長崎養生所)



※現地見学をご希望の方は、本紙連絡先まで、ご連絡下さい。  
 私達は、現地見学をご希望の方が集まれば、長崎市に見学の申し入れを致します。  
 日程、案内者、見学コース等の詳細については、改めて、ご連絡致します。

分析究理所建物遺構及び敷地石垣検出状況



縮尺 1:500



(A3紙サイズをA4紙サイズに縮小しています)

